

アルビレックス新潟サポーターカンファレンス2012 議事録

■日時

12月8日(土) 12:00～15:20

■会場

新潟市江南区文化会館 音楽演劇ホール

■参加人数

136名

■出席者:

株式会社アルビレックス新潟 代表取締役社長 田村 貢

株式会社アルビレックス新潟 取締役強化部長 神田 勝夫(強化・育成全般)

株式会社アルビレックス新潟 取締役営業部長 山本 英明(事業全般)

■議事録

司会

本日は悪天候の中、また寒い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。時間になりましたので、これよりサポーターカンファレンスを開始とさせていただきます。

まず、注意事項を何点かご説明させていただきます。本日のサポーターカンファレンスの目的はクラブ、サポーターの皆さんと一緒に今年の問題点や現状を意見交換させていただきまして、前に向かって、来季に向かって進んでいく場とさせていただければと思っております。皆様から質疑応答の時間も設けさせていただきますので、建設的なご意見をいただき有意義な時間を過ごさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日、受付時に注意事項を掲出させていただきましたが、写真撮影、録音、動画撮影は大変申し訳ございませんが、ご遠慮いただきたいと思います。携帯電話はマナーモードにさせていただくか、電源をお切りいただきまして、会を進めさせていただきます。ツイッターやブログへの投稿もご遠慮いただきたいと思います。本日の内容につきましては後日、議事録をホームページに掲出させていただきますので、よろしくお願いいたします。

会が長くなりますので休憩を入れさせていただきますながら進めさせていただきます。こちらのホールは飲食ができませんので、ご協力をお願いいたします。この後、出席者の自己紹介をさせていただきますが、それ以外にもアルビレックス新潟の社員が皆さんと同じく出席させていただきます、進めさせていただきます。

申し遅れましたが、本日の司会を務めますアルビレックス新潟の武藤と申します。長時間となりますが、よろしく願いいたします。申し訳ございませんが、座って進行させていただきます。

では、まず初めに社長の田村よりサポーターの皆様へご挨拶させていただきます。

田村社長

皆さん、こんにちは。今日は非常に寒い中、風も強く足元も悪い中、カンファレンスにご出席いただきまして誠にありがとうございます。改めてJ1に残留できて、皆さんの声援、そしていろいろな方々のご支援、応援があって達成できたと感じております。どうもありがとうございました。しかし、今季の目標は違ったところがありましたので、ぜひこの厳しい経験を来年にどう生かしていくかということクラブ全体、そして皆さんと一緒に考えながら、来季にいい結果が出せるように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

神田

皆さん、こんにちは。強化をやっております神田と申します。今年目標はACLということ掲げて参りましたが、途中で方向が変わってしまいまして申し訳なかったと思っております。その反省も含めて、皆さんとこれからのアルビレックスの方向性を一緒に意見交換できればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

山本

皆さん、こんにちは。山本英明と申します。私は営業関係、広告スポンサー協賛、チケット、商品、飲食事業全般を担当させていただいております。色々な方からサポートを得ながらつくり上げていくクラブですが、これからも皆さんと一緒に更なる高みを目指して頑張っていきたいと存じます。

さて、今シーズンは本当に苦しいシーズンでしたが、皆さんから様々なお力添え、アドバイスをいただき、一丸となって乗り切れる部分がありました。チームとサポーター、スポンサー、ボランティアさんも含めて一つになれたことをクラブ社員スタッフも本当に勉強させていただきました。この力を来季につないでいくべく年明けから開幕に照準を合わせて地域の盛り上げや皆さんと一緒にできる活動を取り組んでいきたいと思っています。まずは今シーズンの反省を確認させていただきながら、建設的な意見交換ができれば幸いに存じますのでよろしくお願いいたします。

司会

なお、私の横にカメラがありますが、クラブの記録として回しているだけですので、ご承知おきください。

今日の全体的な流れを説明させていただきます。この後、社長の田村から今シーズンの総括と来シーズンに向けて話をさせていただきます。その中で強化面や営業、事業、チケットが出てくると思いますので、神田、山本が話をさせていただきます。その話の内容については、事前に皆様からいただいた質問にすべて目を通しておりますので、それも踏まえております。その後、質疑応答をできるだけ多く設けたいと思っております。質問いただく方は挙手していただき指名させていただきますので、まずお名前を言っていただいからご質問いただくという形で進めさせていただきます。

では、メディアの方はこれで退出していただきますのでよろしくお願いいたします。

では、早速ですが今シーズンの総括と来季に向けた取り組みについて社長の田村よりお話をさせていただきます。

田村

改めましてよろしくお願いいたします。座ってお話させていただきます。まず、シーズンが始まる前の話をさせていただきますが、昨シーズンは勝ち点 39、14 位でしたので、まず改善すべき点は得点力アップということで監督と話をしました。通常、選手の補強についてはその時の監督の意向を最優先にして、強化と話をしながら進めます。もちろん選手を全て獲得できるわけではないので、優先順位を決めながら交渉して獲得していくことになります。その中で昨シーズン、ブルーノロペス選手は 13 点取っておりましたし、ミシェウ選手も 6 点取っていました。その時はチョ・ヨン Chol 選手も残る前提で動いておりましたので、そこを主体として、さらに得点力となるとちょっと違ったタイプの選手がいるということで、ガンバ大阪から平井選手、そして MF のところで、監督が鹿島で教えた経験のある小谷野選手、そして、ブラジルからアランミネイロ選手という攻撃的な選手を獲得しました。進めていく中でチョ・ヨン Chol 選手が大宮に移籍することが決まった段階で、もう 1 枚いるということでいろいろ動きました。矢野貴章選手が他チームからもオファーがありましたけれど、新潟でやりたいと選んでくれた。サポーターの皆さんも、やはり矢野貴章選手が帰ってくるということで喜んでいただける方が多かったと思います。そこは予算の少ない中でしたが、会社でいろいろ検討しながら、サポーターのために、そして監督もどうしても獲得してほしいということでしたので、決断してスタートしました。やはり得点力の改善というのが昨年も課題でありました。特に終盤で追いつかれて同点になったり逆転されてしまったことが多かったと思います。皆さんの記憶にもあると思います。そういうところを改善していこうとキャンプをスタートさせました。

キャンプの中で、強化部から報告を受けたり、ずっと見ていたわけではありませんが、私が見たところでは、高知のキャンプ、清水のキャンプとも割といい仕上がりがだったと思います。その中で平井選手がケガをしたり、矢野選手が試合勘や、以前新潟でプレーしていた頃のアグレッシブさ、泥臭さを取り戻すのに時間がかかるかな、という感じはしまし

たけれど、プレシーズンも含めてそんなに悪くなかったかなと思います。

開幕はアウェイの川崎戦でしたが、今シーズンの象徴ですけれど、前半すごくいい入りをして、決定的なチャンスもあったが決めきれなくて、セットプレーでやられてしまったという印象です。その試合もシュートを10本以上打っておりますし、そんなにディフェンシブな感じではなかった。そしてホーム開幕戦ですが、前半はパーフェクト、後半はミスで逆転されて連敗します。シーズン序盤は完璧にやられたという形ではないにしても、いろいろな形でミスが重なって、シュートがポストに当たったりという感じでした。戦い方は悪くなかったと思います。神田強化部長とも話をしましたが、勝っていけば、連勝すればという、そんな感じで12節まできたのかなと。そこで勝ち点9しか積み上げられなかったわけですから、問題があったと思います。徐々にチームとしての戦い方が変わっていったと思っています。負けないためのサッカーをしていたのかなと。シュートの数も減ってきましたし、ブルーノロペス選手が孤立してまって、カウンターしかないという戦い方になってしまった。2008年、2009年、2010年は8位、9位、14位でした。今まではチームとしての戦い方も、本当に諦めないで、今シーズンの最終戦やその前の仙台戦のような戦い方だったと思います。どうしても負けが増えてくると、負けないように、失点しないように、という戦い方になってしまい積極性を欠いていった形です。そこで切り替えて貫いていくことが大切だったと思いますが、そんな中ジュビロ戦で一番悪い戦いをしてしまって、監督が辞任するということになります。もちろん、監督ともいろいろな話をしましたが、続けていくには、これからの戦い方をどう変えていくかということが明確になってこなかったので難しいということになった。監督だけに気持ちがあってもチームは良くなりませんし、選手だけがあってもいいチームになりません。目指すものがハッキリして、お互いに信頼して、一体感を持ってやらないといい戦いはできないと思います。そういう意味では負けが多くなってきた段階で監督と選手との信頼関係も少しギクシャクしていた部分もありました。最終的にクラブと監督の決断ということで、皆さんがご存知のように辞任となります。

それから次の監督探しということになります。一部、皆様からも遅いのご意見もいただきましたけれど、簡単に決めてしまっってはやはりいけないなど。今まで築いてきた新潟のサッカーを継承できることが大事だと思っています。人々に感動を与えるというのは、仮に負けたとしても、一生懸命さ、選手の頑張っている姿が大事です。負けていて点差がひらくとひっくり返そうという、ひたむきな姿勢が見られないチームもあります。私はそういうチームは大嫌いです。そういうチームは新潟ではないと思います。そういうチームを作らないために、今までの新潟らしい、皆さんが感動できるようなサッカーを継承してくれる監督を探しました。もちろん、外国人の監督も候補にあがっていましたが、最終的には2人の監督の選択になりましたけれど、神田部長が2人から話を聞いた中で、新潟の戦い方、いろいろな条件等も含めて柳下さんに決めさせていただきました。その間に上野さんにもしてもらいましたが、毎日練習を見ている番記者のメディアの方にも言われまし

たが、上野さんがワンクッション入ってよかったと言われました。ある程度チームを変えていかなければならない。劇的に変わらないので、その中で方向性を、少しずつ考え方を変えていく適任者だったと思います。人一倍苦勞させてしまいました。誰に対してもすごく謙虚で、ニコニコした、人のいい上野さんだからこそできたと思っていますし、非常に感謝しています。その後に柳下さんになるわけですが、昨年までジュビロの監督をやっていたということもポイントになりました。それ以外の方は、何年も J リーグから離れていた方もいらっしゃいました。そういう意味では、対戦相手として新潟を最近まで見ていたので、入りやすさでは柳下さんがよかったと思いました。最初にお会いし話をした時に、新潟は好きなチームだと言われました。理由は、まず選手が一生懸命頑張る、手を抜かない、みんな走れる、まじめ、ということです。コーチを連れてくるとか、選手を獲得するとか、何かリクエストがありますか、と聞いたら、今のチームで十分戦えるという回答でした。その時に強い意志、闘志を感じました。夏の移籍期間では監督と強化と話をし補強しました。監督からは、キム・ジンス選手も内田選手もケガをしていたため、サイドバックができる選手ということで探しました。他のチームを見ても、サイドバックはなかなかいないです。今いる選手をサイドバックで鍛えようという考えもありましたが、なかなか難しいところもあります。センターバックとサイドバックのできる大宮の坪内選手に声をかけました。大宮も難しい判断だったと思います。同じ残留争いをしているチームだったし、お金もかかりました。本人の判断も迷っていたと聞きました。最終節の得点も早い時間で取ってくれたおかげでチームとして落ち着きをもたらしてくれた。名古屋戦の得点も 5 点目でしたけれど、DF として 2 点取っているというのはすごいことだと思います。そういう意味では獲得してよかったと思います。実は監督とは FW はこのままでも十分いける。矢野選手も変わってきているし、将生選手も前向きになっている。あと、ボランチがケガをしたり出場停止になると厳しいということでリクエストがありました。そこは実を言うと最終的には契約できなかつたが、契約すれすれまでいきました。クラブ間も OK、条件も OK というところまでいきましたが、最後にダメになりました。もちろん素晴らしい選手で過去には日本代表にも選ばれていました。何が足りないという気持ちじゃなかった。新潟のために頑張るという気持ちがなかった。そういう気持ちの部分重視するのは鈴木さんもそうでしたし、反町さんもそうでしたが、柳下さんも同じ考えで補強がなくなりました。クラブとしても全力を尽くして監督がリクエストすることを何とか実践しようと努力しました。監督も選手も頑張ってくれて、サポーターも頑張ってくれて、こういう結果になったと思います。もちろんホームで 3 勝しかできなかつたことは、今までにはなかつたことです。新潟はホームで 10 勝くらいしてアウェイは弱いというチームでしたが、それを変えようとして今シーズンは逆に なつてしまった。やはり皆さんの応援を受けて選手たちは勝たなければならないという思いが強くなりすぎて、特に終盤は逆に硬くなつてしまったのかなと。プロだからどうなんだという人もいますが、サポーターの温かい、熱い声援が新潟は特別大きいと選手たちも感じているからだと思います。それは来シーズ

ンに言い聞かせて、逆にアドバンテージに捉えてもらうようにすることが改善点だと思います。細かい来年のことは神田強化部長から話をしてもらいますが、シーズンとしてはこのようなチーム状況でした。今シーズンは失点が少なかった。失点というのはDFとGKだけがよければいいのではなくて、前線の選手からチェイシングして、前で奪えれば速く攻めるというチームを作っているの、前線の選手がいかに守備をして後ろで待ち構えるという戦い方ができたと思っております。まずそれを継承していく。前線から追ってボールを奪いに行くというチームは多くなってきましたが、そうではなくFWは守備をせずに前に残って攻撃のために力を貯めておくチームもある。来シーズンの課題は得点力ということになりますので、監督とよく相談しながらやっていきたいと思っております。

あとは、事前の質問が多かったのは主力選手の移籍についてです。私の言葉足らずで、新聞ではプロだから仕方がないということが載ってしまっていますが、その前の段階でクラブとしては一生懸命条件も含めて、誠意を込めて、心を込めて交渉しています。最終的に決定するのは選手自身なので、そこは次に切り替えるしかない。そしてプロとしての判断ですから仕方がないですね、という話をするとう新聞には抜粋されてしまいます。今の交渉は選手とではなく、代理人としています。選手と直接というのはほとんどありません。J2の頃、私も交渉していましたが、代理人はほとんどいなかったです。選手と何度も話をしていた。今は、条件などの話は代理人としています。選手とはチームの戦い方とか、補強の状況とか、来季に向けてどう考えているのか、ということだけです。質問にもありましたが、主力選手が代わりの選手がいるからいらぬと言われてきましたが、それは絶対にありません。断言できます。そういう噂が独り歩きするのが嫌ですし、選手にも申し訳ないという感じがします。そういう形で代理人と交渉をして、最終的には選手の判断となります。大きくは、条件と新潟よりも移籍先のチームが優勝できる可能性があるかどうかです。例えば、順位が同じくらい、ましてや下のチームに移籍する選手は皆さんのご想像の通りです。監督と話をしてこの選手を残してくれ、この選手を獲得してくれと言われたら、全力で行います。ただ、クラブとして条件を出せる限度がありますので、その兼ね合いも出てきます。ただ、限度と言っても、新潟もJ1に9年いますので、皆さんが思っているより、すごく低いベースではありません。もちろん、収入構造が倍くらいあるチームは別です。ただ、出さなければならぬところは、ある程度のレベルに持っていつています。変な噂が出るとクラブとしても困るのでお話をしました。そんなやり取りをしながらチーム編成をしています。これは新潟に限ったことではありません。優勝した広島も生え抜きの主力が抜かれています。それでも優勝できる。選手をJ2のチームにレンタルをして育成しチームを作っています。大きな原因が移籍金制度の撤廃です。それが2010年からスタートです。今までのルールを説明しますと、30歳までの選手は契約が切れても移籍金が入ってきた。年齢によって係数は違います。お金を持っているクラブもなかなか手を出せなかった。若手選手で3,000万円くらいもらっていると、移籍金が3億円くらいかかってしまいます。しかし、移籍金制度がなくなったことで、契約が切れれば移籍金がなくなるので

倍の年俸を出しても 1 億円以下くらいで選手が取れるようになる。しかし、新潟はそんなに出せません。代理人は選手を移籍させれば手数料が入ってくるので、選手を移籍させたくなる。そうすると、どうしても主力選手が移籍してしまうということになります。しかし、お金で選手を集めてチームを作っても順位が上にいくとも限らない。だから育成をしながら、移籍で選手を獲得しながらうまくバランスを取ってチーム作りをしていくのがクラブの役割だと思っています。毎年優秀な若い選手を獲得しています。しかし、一人前になるまでには時間がかかります。鈴木大輔選手も 4 年かかっています。そういうことも考えながらクラブ経営しなければなりません。外国人は 100%条件です。条件でなかったのはファビーニョくらいです。昔、新聞にも出ていましたが、ファビーニョに他クラブからオファーがあった時も新潟が好きなので残りますと。それでも新潟が好きで選手が多いです。アンデルソン・リマ選手はブラジルでコーチをしています。新潟の強化担当がブラジルに行くとき選手を紹介してくれたり、ペドロが新潟に来るときは、リマから新潟はいいチームだと聞いてきたと。ファビーニョは残念ながら家庭の事情で帰国してしまいましたが、コーチの修行をして、いい監督になって新潟に戻ってきたいと言ってくれましたし、出て行った選手も新潟を好きな選手が多くいます。アンヨンハも新潟によく来たりしています。移籍金制度が、選手が動く一番大きな要素になっている。それと移籍によって選手の年俸が上がったりします。以前に在籍していた選手は前所属クラブでけっこうもらっていました。当時の監督がどうしても獲得してくれということでしたので交渉しました。戦力外になった選手なので、年俸が下がると思っていたが、他のチームも狙っているため年俸が想定よりも上がってしまいました。最終的にすごく年俸が上がってしまう。新潟ではなく、Jリーグ全体でそういう形になっています。選手を止められれば止めたいと思っています。絶対に残したいと思っても難しい状況もあるので、選手の育成に力を入れていくことも大事だと思っています。鳥栖は今年頑張りましたが、主力の選手はレンタルが多く、育成もまだまだです。そうすると J1 に居続けることが難しいのかなと思っています。アルビレックス新潟も J1 昇格前までは移籍金を払って選手を獲得できなかった。幸いに新潟は 2004 年に J1 へ上がってから入場者数が多くなりました。2005 年がピークでしたが、そのチケット収入で移籍金を払って選手を獲得できました。外国人もその当時はブラジル 1 部リーグのパルメイラスからエジミウソンを獲得しましたし、オゼアスを獲得したり、ブラジルのセレソン経験者だったアンデルソン・リマを獲得できました。日本人も矢野貴章選手や永田選手も移籍金を支払って獲得しました。軸になる選手を獲得し、その間にスカウトして選手を育ててもらって、後々のアルビレックス新潟の選手を作っていこうという構想があって現在に至ります。移籍金制度が変わらなければ、選手は残っていたと思います。皆さんが大好きだった選手も残っていたかも知れません。今はそんなことになっているので非常に残念です。本来は今の実施されているルールは国際ルールで、国際間の移籍に関してのルールです。ブラジル人の獲得に関してはこのルールになります。それまではローカルルール、旧ルールが適用されていました。ローカルルールはその国内の法律に触れなけ

ればその国の中で決めていいという FIFA の考えがあります。旧ルールは、本来は J リーグを立ち上げた時に、苦しい地方クラブもあるだろうから、選手が抜かれる時にお金を落とせるようなルールをみんなで作りました。しかし、それが撤廃されてしまいました。毎年このような話をしていますが、言い訳ではなく現実なのです。もちろん新潟も誠意を込めて、条件も最大限に考えて引き止めようと努力をしているということだけご理解ください。

次は監督の育成についての話です。育成とは、別に手取り足取り教えるわけではありません。選手の育成の一番は真剣勝負の戦いの場をいかに提供できるか、経験を積めるかということだと思います。鈴木大輔選手もようやくコンスタントに試合に出られるようになりましたが、数年前は永田充がいたり、千代反田がいたり、千葉が出てきたり、なかなか試合に出られませんでした。公式戦に出場した時、柳沢選手にやられて 2 点くらい失点しましたが、そういう経験をしなければ選手は上達しないと思います。今回、川又が岡山で頑張ってくれました。いかにそういう場を作ってやるか。移籍金を支払って主力になる選手を獲得すると、若い選手はそういう場面がなくなります。サテライトリーグもありません。新潟の場合は関東から少し離れているので、強い大学や J2 のチームとの練習試合をすることもなかなか難しい。それも真剣勝負ではありません。そして、監督も同じで、柳下さんは実績もあって素晴らしい監督なのですが、もっともっと伸びることができる監督だと思います。そういう真剣勝負の場を今回得たので、もっと伸びていてもらいたいと思います。その下に栗原コーチがいます。彼はジェフユースの生え抜きでしたが 4 年間プレーして引退し、若いうちからコーチの勉強をして経験を積んでいます。シンガポールにも行ってコーチをしていました。最終戦を指揮しましたけれど、素晴らしいと思いました。あれだけ冷静に、最後の記者会見の受け答えもしっかりしていて、素晴らしいコーチに育っていると思いました。私なんかは涙で答えられないくらいだったのですが、冷静に判断し、監督代行としてしっかりやってくれました。たぶん、いろいろな監督の下で勉強していることで、成長していると思っています。今年優勝した広島森保監督も新潟で 2 年コーチを経験していますので、いい経験ができたのかなど。それで今回の優勝がつながっていると思います。仙台戦に勝った後、優勝したのでメールを送ったのですが、最終節は新潟のためにも頑張りますという返信メールをいただきました。強い気持ちもあるし、森保さんも頑張ってほしいと思います。反町さんもそうですし、鈴木さんもそうですし、黒崎さんもそうですし、指導者の育成は我々が育てるということではなく、真剣勝負の場を提供することだと思います。監督としてだけでなく、コーチとしても、選手としても同様だと思います。シンガポールでは杉山さんが頑張っていますし、山口素弘さんもそうです。江尻さんもそうです。選手やコーチだった方が新潟のマインドを持って、目標を掲げてがんばっています。すべていいことにはならないことも多いと思います。反町さんも新潟を辞めて、代表に行って、結果が出なくてひどくたたかれたこともありますけれど、今は松本では神様のように言われていると聞きました。いろいろなことを経験しながら素晴らしい監督になってくれたらと思います。日本の監督は S 級ライセンスを取っています

が、海外に出たのは岡田さんくらいです。それくらいになってくれればいいと思います。杉山も英語圏のシンガポールで頑張っていますけれど、すごく評価は高いです。そういうグローバルに活躍するような監督が出てくれればいいと思います。

我々は皆さんと同じ気持ちで、いいチームを作って優勝したい、タイトルを取りたいということです。今シーズンは悲しい結果になりましたけれど、それを反省して、しっかり分析をして、次につなげていくということも使命であると思っています。柳下監督を継続するときに、12月1日に取締役会を開催し、結果がどうあれ柳下さんでいかせてもらいたいと諮らせていただきました。欠席している取締役も少しいましたけれど、上場企業の社長もサッカー協会の方も取締役に入っていただいているので、外部取締役も含めてご承認していただきました。同時に我々（代表取締役を含めフロントの役員）も引き続きやっていくことで、併せてご承認いただきました。もちろん改善できないことはないように努力します。今の結果を真摯に受け止めて、分析して改善していくことが使命と責任だと思いますので、来年もさせていただきたいと思っています。

司会

一度、10分くらい休憩を挟みたいと思います。この後は、チケット、集客、強化のことをお話しさせていただきたいと思います。

～約10分間休憩～

司会

それでは強化面について、強化部長の神田よりお話しさせていただきます。

神田

来季の展望という事で、今柳下監督が続投になりまして、監督と今進めていこうというところです。

今まで私が強化をやってきて反町監督、鈴木監督、黒崎監督、そして柳下監督となります。反町監督は今いる選手達を活かすには速攻型をやるしかないという所から入っていききました。

鈴木監督はアルビが更に上に行くにはポゼッションを進めよう、ボール保持率を高めなければ上に行けないという所で補強して欲しいというところからきました。

反町監督の頃はまだスカウトが無かったので、いろんな選手を連れてくるという所からでした。そこからスカウト、まず選手を入れていこうという所から入ってきて、最初に社長が言いましたが、お金をかけて獲得した補強選手が元気なうちに若い選手が育ってくるというところを考え、補強していききました。

その後、黒崎監督は継承していくという方向でしたので、それをいる選手・補強してい

く選手というところでしたが、ルールが変わっていき選手が出ていきました。引き止めましたが、なかなかうまくいきませんでした。

そして、柳下監督は何をして来季上を目指しましょうかという話を進めています。得点力を上げよう。今いる選手達の引き止めが先にくるので、今いる選手たちに上積みはどうやっていくかというところで、得点力を上げていきたい。攻撃の選手含め声をかけている所もあり、そして今いる選手たちの中でも、自分の意思（新潟で戦うという意味）とちょっと鍛えて欲しいという選手たちとが入り混じっているので、意思確認をしっかりと補強を進めていきたいです。今言えるところは、今年の反省を含めて得点をどうやって上げようか、失点はJリーグ No.1、No.2 くらいまで少なかったのですが、『その失点を維持するには』というテーマと、『それを維持しながら得点を上げるには』の戦い方を進めよう。私の方から言える範囲としては少ないですが、今そういうところを進めているところです。以上でございます。何か後程質問が有りましたら、お願いいたします。

山本

皆さんから多くのご意見を頂いた中にチケット・集客・事業という所がございましたので、私山本がご説明させていただきます。

まず先程の挨拶の際、遠方からご参加いただいたり、お足元が悪い中でのご来場いただいたことのお礼を申し上げておりませんでした。大変申し訳ありませんでした。上越など遠くからいらっしゃる方々もお見受けし、今日お集まりの皆様との意見交換から一緒につくっていきたくと改めて思った次第ですので、宜しくお願いいたします。

ご意見の多くはチケット集客関連でしたが、まず事業全体のお話からさせていただきます。クラブの収益の大きな枠組みのうち、事業全体は、広告というスポンサーからの協賛収入とチケット・シーズンチケット等の入場料収入でほぼ 8 割を占めております。それ以外は商品、飲食、後援会からの財政支援金、Jリーグからの放映権料等の分配金という所です。その中で、柱となる広告とチケットですが、まず広告料収入につきましては、2008年のリーマンショックを受けた翌年に1億円減りました。具体的には2008年は9億5千万円のご協賛をいただきましたが、2009年は8億5千万円に落ちました。今年2012年は着地見込みではありますが、スポンサー各社の温かいご支援のお蔭でようやく2008年に近いレベルまで戻って来ております。

しかし、この間の大きな社会的経済的变化により、一般的に企業は一番先に広告宣伝費を削るようになりました。企業の皆様からしますと、同じ100円を出すにも、より多くの費用対効果や中身の濃い広告露出等を求めるようになりましたので、実際に同じ2008年程のご支援金と比較しても、スポンサーや地域の方々との共同活動が非常に増えました。

これは相反する意味があり、いい意味で地域の方々との橋渡し、クラブと地域との距離を縮められるサッカー教室やサイン会などのイベントが多くできるようになりましたが、他方、逆説ですが業務量が格段に増えました。クラブも人員拡大は容易にできないもので

すから、サポーターの皆さんやご支援いただく企業の社員の皆様と一緒に活動させていただいた所もありましたが、非常に仕事量が増えたというのがこの間の変化でした。

ただ、会社としましては向う3ヵ年の中期計画を作っているところですが、私共は23~24億の事業規模を2015年度までにJ1リーグ平均の約30億円まで持っていきたい、広告収入は9億5千万円程ですが、あと2億強増やして2015年に12億まで持っていきたいと考えております。

一方、チケットですが、2005年シーズンに最大12億円の興行収入がありました。ご来場の皆様の多くにシーズンチケットをお求めいただいて長らく応援いただいております。その数も最高は2万枚を超えておりましたが、現在は1万1千枚弱という所でございます。興行収入におきましては、最大時から5億円減少し、7億円まで落ち込んでしまっております。こちらは色々な要因があります。色々な要因とは、チームが勝ちきれず期待に応えられなかったことや、私共運営側のホスピタリティや楽しさの演出で至らない部分もございます。また、チケットを手にして応援にお越しいただく以前の問題として、ファン・サポーターづくりのためのホームタウン活動や、パートナー企業・後援会法人個人会員の皆様へのお仲間づくりのアプローチが足りていないことも落ち込む原因となりました。

クラブの事業はチケットも広告も商品開発も、ホームタウン活動と言われる地域活動も全て関連し一体となっております。サポーターや地元の皆様方にもご協力いただく所もございますが、この部分を総合的に捉え、2015年に向けて年々上げていく目標を立て、具体的な落とし込みを行い、日々、社員スタッフ一同で目標とお客様満足度も精査しながら向上させていく所存でございます。ですので、大きな目標を申し上げますと事業収益としては2015年度に30億円に持っていく、そのためには今から何をやるかという所を詰めてまいります。

チケットにおきましては、今まで取り組めていませんでしたが、今シーズンは全試合企画チケットを導入させていただきました。普段経験することが出来ない体験企画を付加価値としたチケットや、こちらは大変感謝申し上げますが被災地域の方々にビッグスワンに招待してプロサッカー選手の生観戦やいただいたりトップチームの選手たちと触れ合ったり、大きなグラウンドで思いっきりサッカーをしていただくような招待活動に結び付けさせていただいた復興支援チケットもございました。シーズン当初は1試合に1内容でしたが、シーズン終盤は1試合につき4種類の企画チケットを導入することができ、非常に多くの方々からご支援・ご参加をいただきました。述べ人数では約2,000人の方々にご参加ご利用いただき、ファンづくりや感動の共有以外に、事業収益面でもシーズンチケットの落ち込みを少しでも下支えすることができました。今年取り組んだものを反省し、これを機会にまた来シーズン以降も拡大していきたいと存じております。

一方、集客という課題もございますが、先程来、話をさせていただいておりますが、全て一つの関連したものになっております。目標を4万人として、今年の平均2万6千人をどうやって上げていくのかということですが、それにはアルビレックス新潟に関わる方々

をもっともっと増やしていかないといけないと考えています。その為には、地域へのアルビレックス新潟の普及、サッカーの普及、スポーツの普及、アルビレックスの持っている素晴らしい誇れる価値の普及と理解促進を目指していきます。

その一環として、今年取り組み始めた事は、ホームタウンである新潟市と聖籠町の全小学一年生を対象に、入学時にアルビレックス新潟の選手の顔写真とプロフィール、ビッグスワンへの観戦方法、スタジアムイベントの楽しみ方等が記載された下敷きを配布させていただきました。また、選手会とも連携して、選手と育成コーチが小学校に訪問して交流させていただくことも継続的に行っています。このような活動を5年10年15年と続けていければ、その時の小学一年生が成人し、社会人として、また家庭を持って、次世代までアルビレックス新潟を近くに感じ応援いただけるようになれると信じております。

また、これは新たな取り組みの一つですが、今シーズン、新潟市からも助成を頂戴し、小学生を含むファミリーを対象にして、新潟市内からご観戦いただく親子の招待事業を行いました。昨年までは小学生のお子様が無料招待、親御さんを優待価格での販売としていましたが、新潟市の助成を頂戴しアルビレックス新潟にもチケット収入が上がるような形にさせていただきました。親御さんとも無料でご招待させていただいたところ、昨年ご参加が合計6千人強でしたが、今年は更に3千人増え、新たに多くの方にご来場いただきました。このような結果に新潟市からも高い評価を頂きましたので、来年以降、更に拡大していけるよう、新しいファンをつくっていけるような取り組みを一緒に考えていきます。

また、新潟県からもご支援を同じような形で観戦機会の提供の働きかけをさせていただいたところ、ご了承とご支援を頂戴し、今シーズンは市外県内から約1,300人のご観戦をいただきました。こちらはバスを仕立てて、新潟市外の遠方、上越、中越、村上など、佐渡は出来なかったのですが、多方面からたくさんの方々にご参加いただく新しい取り組みを始めさせていただきました。こちらは大変好評で、新潟県の方から来年は1,500人、もっと上を目指そうというお言葉も頂戴しており、新しいファン層の拡大につきましては、今シーズンは小学生・そのご家族をターゲットに注力して参りました。

更にホームタウン活動の一環としましては、図書館や地域の公共施設とタイアップさせていただき、ポスターの掲出のみならず、選手が出かけていき、普段サッカーと関わりがなく、選手を近くで見たことが無いような方々ともふれあわせていただきました。県立図書館や中央区の本ポートさんとも関係づくりができ、クラブ応援情報コーナーの設置などご支援とご協力をいただきました。このような形で地域の方々との取り組みは、一昨年頃から取り組んでいったものが少しずつ芽が出てきている状況です。

こういった取り組みは、来年は今年以上、再来年は来年以上のことを行えれば、アルビレックス新潟との接触ポイントが増え、情報の伝達・クラブ活動へのご理解をいただける環境ができますので、点が広がって面になるように地域に根差した活動を努めてまいり所存でございます。

試合会場のホスピタリティというところでは、まだまだ至らないところがございますが、

2008年から2009年、2010年とハード面やソフト面でも年々改善に努めております。Eゲート前広場のベンチやテーブル、案内表示も少しずつ設置させていただいております。今回のカンファレンス用にお寄せいただいたご意見の中にも、もう少しゆっくり休めるスペースが欲しい、コンコースにも休めるスペースが欲しいとのことでしたので、来年に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

ファンづくりや満足度向上の観点では、飲食事業の所での事例を紹介させていただきます。当初から火気厳禁であったビッグスワンで温かい飲食をご提供できるように消防や保健所に駆け寄り、2005年終盤から1層目コンコースと外広場の飲食売店では火が使えるようになりました。以来、飲食出店企業の皆様にも大変なご努力を頂戴しまして、日に日に提供するメニューやサービスの質も充実してきているのではないかと感じております。

数字の話で恐縮ですが、2006年2007年のご来場者様一人当たりの飲食購入単価が約200円でしたが、2011年は370円まで上がり、今シーズンは450円を超えた日もございました。日頃よりサポーターの方々が積極的にスタジアムで飲食を行いクラブ支援につなげていただけた賜物と存じますが、柏崎市さんの鯛茶漬や糸魚川さんのブラック焼きそば等、地域の方々と連携を模索し、地域おこしの意味合いでも新潟グルメを楽しんでいただきながら少しでもご来場の皆様にも喜んでいただけるような取り組みが芽生えつつあります。

これが完成型ではないので、まだまだ広げていかなければならないと思っておりますが、こういった形で地域の方々にももう少しアルビレックス新潟の事をご理解いただく活動を勧めながら、会場も楽しい広場に、楽しい空間になるように努めてまいり所存でございます。

先程申し上げましたが、まだまだ目標は高く持っております。そこに向けて日々何をしたら良いのかというのは今一度社員一同全力で取り組んで参ります。

最後に一言御礼があります。今季9月29日からの残りホーム5試合を何としてもチームを残留に導く、当時は残留という表現ではなく必ず勝って上を目指そうという時でございましたが、サポーターの方々と地域、クラブとチーム一体となって盛り上げていこう、後押ししようという形で一つの企画を実施させていただきました『We are ONEプロジェクト』。新潟ゆかりのアーティストである難波さんの多大なるご協力も仰ぎながら歌の題名を使わせていただき、スタートいたしました。正直申し上げて、これ程までにたくさんの方々から色々な想いを抱いてご参加いただき、ご声援とお力をいただけるような企画になるとは思っていませんでした。シーズン序盤に皆で行った弁天線の清掃とオレンジ化や終盤の駅のアルビポスター貼り活動もそうですが、選手バス出迎え、特大応援横断幕の掲出、を皆で考案し皆で選んだオレンジTシャツで応援いただく等、様々な企画をお互いで意見し激励し合い実施させていただきました。ご参加いただいた全ての方の想いが一つになり、目指すところに向かって皆様と一緒にあって取り組めた企画であったと心から感謝しております。そして社としても大変勉強させていただくことができました。

これを来年の開幕に向けて、また皆様と一緒に考えて進めさせていただきたいと思っております。そうすれば選手もチームもサポーターの皆さんも、かかわるすべての方々にと

っても気持ち良くスタートダッシュができると信じておりますので、引き続き本活動にもご協力・ご支援の程宜しく願います。

長くなってしまいましたが、以上でございます。

司会

クラブの方から今年の現状、また来季に向けての話をさせていただきました。冒頭私の方からも会の目的、カンファレンスを実施させていただき目的をお話させていただきましたが、クラブとサポーターの皆様と一緒に考えて、一緒に振り返ってまた来季に向けて皆様と一緒に取り組んでいきたいという強い思いがありますので、これからは意見交換の時間を設けさせていただきます。質疑応答形式でこの後は進めさせて行きたいと思えます。

まず、社長から全体的な話をさせていただきました。シーズンの結果について、監督交代という部分もありました。得点力不足の問題、移籍のルールが変わって現状こうであるという話もさせていただきました。育成クラブ・指導者の育成の部分も話させていただきました。続いて神田強化部長の方から現状の来季に向けて話せる範囲で話をさせていただきました。山本からはチケット、集客、ホームタウン、**We are ONE**プロジェクトの件も話をさせていただきました。

これからの質疑応答の時間は、テーマは区切りませんので、既に皆様からいただいている質問を踏まえて我々話をさせていただいたつもりですが、まだ個別に聞きたい点等、多々あると思えますので、折角の機会でするので建設的なご意見をいただきながら、皆様と一緒に取り組めればと思えます。

挙手をいただきまして、私の方でご指名をさせていただきます。マイク係がおりますので、マイクを使ってご質問をいただく形となります。大変申し訳ございませんが、最初にお名前を言っていただいて、ご質問をいただきたいと思えますので、ご協力をお願いいたします。

では何かご質問がある方は挙手にてお願いいたします。

質問者 1

先程、田村社長の方からお話の中で金銭面の面がかなり大きかったと思うのですが、それに伴いまして、やはり一昨年のマルシオ選手等の 0 円移籍の件が個人的には気になりまして、山本取締役営業部長のお話にもありますが、金銭面の収入の増資の取りこぼしが多少あるのではないかと。特にこちらの方としては、見える面としては選手がお金を残さない形で出て行ってしまうと。そういった所に関しましてのプロテクトといえますか、なるべく出さない努力は聞かせてもらったのですが、どうしようもなく出て行く際に、お金の方をなんとしても残してもらおうといった努力を細かく聞かせていただきたいと思えます。

田村

外国人の話になりますが、ある選手の話をしみますと4年いました。1年目レンタル、2年目に買い取り3年間ですが、その間に選手が違う代理人（選手は代理人と契約をし、クラブとは契約しない）と契約しました。

皆様が想像する以上の移籍金（2004年当時ですので億単位）を払って、3年契約します。先程話した通り、FIFAルールになるので契約が切れればフリーになります。そうならないように契約の延長の話を代理人と契約が切れる1年以上前にします。

新聞で、よく海外で誰々が何年まで契約延長したとありますが、契約を延長するにあたっての費用を要求してくる代理人がいます。それはルールにはありません。代理人によってはない場合もあります。ある選手の場合は、そういった話がありまして金額は言えませんが3年間で、年間のクラブ収入の半分位の話をしました。そうすると必然的に契約延長は出来ません。

その後他クラブに行きましたが、他クラブがその金額を払っていたのかどうかは分かりません。もしかしたら移籍させるための口実だったかもしれません。

そうならないように、2年前からずっと延長しようと話をしているのですが、結果的には一向に応じず法外な金額を言って移籍していきます。皆様の気持ちも重々わかりますが、現実的にはそういう事です。

日本人についてはプロテクトという意味では、複数年契約を基本的に結ぶようにしていますが、中には単年契約しか結ばないという選手もいました。今はほとんど居ませんが。という事は、気持ちはいつか移籍したいというメッセージになります。新潟のためにという気持ちがあるかないかの判断はそこで付きますし、そういう選手は、いずれ近いうちに移籍の可能性があるということです。ただ、例えば高德の場合ですと、契約は切れるのですが、クラブで育ったのでクラブの為に契約を延長して出ていきますと。ということは、違約金も請求できますし、今はレンタルですのでレンタル料も貰って、その後の違約金設定もしています。そういう気持ちのある選手もいます。アカデミーから出た選手は多いと思います。

今は代理人の方が強いので、特にJ2は単年契約にされ複数年契約をしない状況になります。どうしたらいいかという答えになっていないかも知れませんが、皆様と同じで新潟の事を好きになってくれて、新潟の為に頑張りたいという選手をどうやって獲得したり、育てていくのかという事になります。

質問者 2

質問というより意見になってしまいますが、私亀田の方に住んでおり亀田駅が近いのですが、亀田駅からの立地条件が悪いので、新潟駅からだけでなく亀田駅からもシャトルバスを運行してもらいたいと思います。

また、試合前のピッチ内ウォーミング時にサポーターへのミニボールの投げ込みがNスタンドに集中しているように思う。サポーターも選手からのサービスが欲しいと思うので、

なるべくまんべんなくサービスしてほしいと思います。

田村

ありがとうございました。シャトルバスの件は前々から同じご意見があり検討しております。シャトルバスは新潟交通さんに頼んでおりますが、基本的には路線バスがないとシャトルバスは運行できないとの事です。新潟駅南口からビッグスワンは路線バスがあるのでシャトルバスが出せますが、亀田駅からビッグスワンまでは通常のバスがないです。途中までであれば可能なので、新潟交通さんと話をして検討したいと思います。

ボールの投げ込みは選手の方にも出来ればまんべんなくと神田より伝えます。

司会

シャトルバスの件は南長潟までは路線があり、そこからビッグスワンまでがないとの状況ですので、今社長が話しましたが、新潟交通さんと確認をしながら進めて行きたいと思っています。

質問者 3

私、本当は社長にビジョンを語ってくれと言いに来ましたが、今まで地区後援会の総会等でお話させていただいた時とは違い、田村社長が自分で背負うという覚悟を感じたので質問を変えて提案にさせていただきたいと思います。

集客の所で、サポーターの教育啓蒙活動に関して無かったもので、シーパスを取ってバック 1 層、メイン 1 層、メイン 1 層真ん中と来ておりますが、どの席でも的外れな野次があり、担当の方に提案しているのですが、教育啓蒙活動は難しいですと一言で終わってしまいます。難しいからやらないのではなく、難しいからこうしようとする事が大事だと思います。

提案になりますが、時々サッカー少年が招待されてきます。そうすると、昔からいるおばさまが選手のミスでないのに「死ね」といつも言っている人たちが、言わなくなります。そういうサッカーを知っている子供たちやコーチを席種関係なくまんべんなく、時々入れていく。ただ、土曜日は子供たちのスクールや試合もあるので、大人も試合もあるので、ちょうど被って来れなくなりますが、広く声をかければ土曜日に来れる人達もいると思います。そういった人たちが、普通にその辺りにて、凄いプレーだなあとか言えば、的はずれな事を言うと振り返られる等。

実際にそういうのが嫌で来なくなった人たちがものすごくいます。教育といってもものすごく難しい事をするよりは、これ凄いなという事が広がっていくと思うので、タダ券を配るのであれば、そういう使い方をしたほうが良いのではという提案をさせていただきます。よろしく願いいたします。

山本

大変ありがとうございます。私事になりますが、滅多に行けない自分の家族が子供を連れてビッグスワンで観戦した際、名古屋戦で5点も入った試合でもあったのですが、点が入るたびに隣のおじさま方からハイタッチを求められ、普段からそういう所にいないものですから初めは戸惑ったようですが、最後の方は皆一緒になって盛り上がり、非常に楽しい観戦だったと話していました。

ビッグスワンが全方位的にこのような温かく楽しい雰囲気になると素晴らしいスタジアムになると思いました。本日いただいたご提案も楽しい観戦になるように皆でまた考えて参ります。大変ありがとうございました。

田村

ありがとうございました。新潟は安心、安全で快適なスタジアムを目指しております。2003年2004年などは特に、スタジアムの中を見ると小さいお子様もいっぱいいましたし、年配の方もいました。その中で安心、安全なスタジアムを目指したいなと思えます。

話したかったのは、今年こういう事例がありました。シーズンチケットのバックスタンド2層目の指定席の所で、お客様がゴミをそのまま置いて帰ろうとして、近くにいた人が注意したら小競り合いになり、顔に手が当たり警察が出動しました。ルール・マナーを守るというのも非常に大切だと思っております。そういう所を十分気をつけて今ご提案いただいた所もしっかり受け止めてやっていきたいと思えます。

これは言っているのかわかりませんが、年間にビッグスワンの椅子がどれだけ修理に出るかわかりますか？といってもわからないと思えますが、1個直すと3万くらいかかります。恐らく椅子の上で飛び跳ねているのでしょう。皆様からいただいたお金で修理しています。だいたい2試合に1回は壊れています。全体的な観戦マナーも含めて、どうやったら皆でいい感じのスタジアムになるかと考えていきたいと思えます。とてもいいご提案でしたので検討したいと思えます。ありがとうございます。

質問者4

先程、興行収入が下がっていると言っていましたが、ある意味当然だと思えます。それは野球やバスケットが出てきたため、そちらが楽しければそちらに行くのは自然の成り行きだと思います。そういった各種アマチュア団体と共同して何かやろうとしていることはお考えでしょうか？例えば梯子チケットとして野球とサッカーを両方見て楽しむといった企画はお考えでしょうか？

あと、マルシオ選手が移籍してからその層が薄くなったと思えます。その層の補強はお考えでしょうか？例えばマリノスで戦力外選手となった狩野選手とかいますがそういった選手を取るのか、外国人の有力な選手を探して取るのかそういった考えはあるのでしょうか？以上、とりあえず2問だけお願いいたします。

山本

ありがとうございます。チケットの事については私の方から回答させていただきます。今オールアルビはサッカー含めて7クラブありまして、定期的にミーティングは行っておりますが、まだ梯子チケットの様なチケットの連携まではできておりません。ただし、タイミングが合えば互いの試合会場で互いにPRや協力をし合っており、先般プロ野球独立リーグのアルビBCが大事な試合に1万人を動員したいという事で、ビッグスワンのEゲート前広場でサポーターに試合来場を呼び掛け、その代わりに当日はアルビBC選手やコーチにサポーターの子供たちたちにバッティング練習や投球を教えていただくなど、出来ることからクラブ連携はさせていただいております。

チケット連携というところでは、まだまだ招待での観戦機会が残るため、お客様が梯子チケットとしての価値を見出し購入していただけるかを各クラブで詰めきれておりません。ですので、例えば色々な会場をスタンプラリーで回ったら何か特典をつけるなどの企画は考えて参ります。

しかしながら、集客に向けてはお互い協力しなくてはなりません。最終戦は4万人でチームの勝利と残留を後押ししていただきたく、オールアルビの各スクール生にもビッグスワンまで足を運んでいただくように各クラブのコーチ・スタッフからスクール生合計約1800人と親御さんに呼びかけさせていただきました。そういった日頃から集客のために、お互いを応援するための連携はとっておりますので、また新たな企画等が決まりましたら発表させていただきますので宜しくお願いいたします。

神田

続いて選手補強についてですが、狩野選手があるかなしかはこれから詰めていきたいと思えます。マルシオ選手の代役に関しては、代役がいいのか、代役は日本人で補えるのか、違うポジションで外国人を連れてきた方が良いのかを、加味しながら監督と相談して連れてこようとしています。外国人を連れてこようとしています、ポジションはどこがいいのかを相談して進めていきたいと思えます。

質問者5

神田さんに質問ですが、ちょっと多いですが三つお願いいたします。

一つ目は、今、センターバック二人が噂になっていますが、菊地選手も含めですが、ユースの福嶋選手がトップチームの練習に参加していると思えます。ユースの試合を見させて貰っていて福嶋選手のプレーは素晴らしいと思うのですが、全く考えていないのか少し検討しているのかを答えられる範囲で質問です。

二つ目は、一つ目の質問と被ってしましますが、GKの小澤選手が契約の非更新ということで、開幕でプレーできる選手は黒河選手一人だけになりますが、補強を考えているのか

下部からの昇格があるのか質問があります。

最後三つ目ですが、大卒の選手を取ったのが、三門選手で最後だったと思いますが、ユースから大学に進学した選手をとることは考えているのか、大卒の選手を取るということは考えているかをお聞きしたいです。

神田

お答えさせていただきます。まず一番のツーセンターバックと菊地選手の動向についてですが、選手の気持ちもありますが、まずは引き留めるとというのが先程冒頭でも来季の構想のところ引き留めたいと話させていただきましたが、現在交渉の真っ只中でございます。どうなるかはまだわかりません。菊地選手も含めて一緒です。本人も18人のメンバーから外れることが終盤多くなりましたし、来年29歳になります。そういった所でどう本人が考えていくかが出てくるので、その辺を含めて本人と十分話していきたいと思います。ですので、これからはまだわかりません。

ユースの福嶋選手が練習に参加していますが、ユースから昇格する選手は川口選手と以前発表させていただきました。残りの選手はサッカーをやめる選手もいますが、ほぼ大学に行きます。福嶋選手は今練習に参加していますが、大学進学が決まっております。そういった所もありますので、今練習しているのはまた4年後ですとか、まず大学で実績を上げれば4年後待たなくても強化指定制度もありますので活躍してこい、と彼とは話していますので、まだまだこれからの選手と思っています。

2番目のGKについては、今現在を見れば元気なGKは一人になるので間違いなく補強します。

3番目、大卒の選手、ユースの選手は取らないのかについては、取らない事はありません。声をかけたり競合したりしているが、なかなかなびいてくれないというのが正しいです。全く取らないという事は思っておりません。

今現在ユースの選手でレギュラーを張れるようになってきた選手が、数人は出てきました。関東の大学、関西の大学の試合を見に行きますとアルビユース出身と出てきますが、そういう選手が何人か出始めました。ようやく出始めてきたというところですので、今3年生4年生でやっている選手たちは5年前の選手達です。そういったところからまだまだ成長してくる選手がいると思いますので、そういう選手を追っかけているというところ です。以上です。

質問者6

意見と要望と私の気持ちも多少入っておりますが、お聞きいただければありがたいと思います。今年はJ1に残留したのですが、僕は12年サポーターをしています。アルビー苦しかったシーズンだったと思います。

残留しましたが過去の別チームの話になりますが、ジェフ千葉が奇跡の残留をしたこと

があり、僕の会社に千葉サポの後輩がいて、その後輩に言われたのですが、『新潟は今年奇跡的な残留をしたけど、来年何も危機感を持っていかないとウチみたいに落ちるよ』と。実際に千葉はそうだったらしいです。選手もチームもサポーターも安心しきって、翌年ご存知の通り降格しました。

ですので、私共、当然選手もサポーターもフロントも一体となって、いつもピリピリしてろとは言いませんが、それなりに危機感と覚悟を持って戦っていかないといけないと思います。その覚悟が社長を筆頭とした皆様にありますでしょうか？

結果残留劇につながった、山本さんがおっしゃった **We are ONE** の企画は素晴らしい企画だったと思う。ジュビロサポの知り合いに『ガンバ何かやってた？』と聞いたら『何もやってない、いつも通りだったよ』と。そこに差があったのでは、後押しが大きかったと思います。それを来年も、入り待ちとなると関係の折衝とか大変だと思いますが、チームとフロントと地域一体となってやって頂ければ、危機を乗り越えて、来年が全てにおいて正念場だと思います。それを乗り越えれば上を目指せると信じています。

意見なのか要望なのかわかりませんが、宜しく願いいたします。

田村

ありがとうございました。もちろん、危機感を持って対応したいと思っております。柳下さんもジュビロにいたときは色々大変な思いをしておられますし、我々もこういった経験、いい経験ではないですが皆様と共有できたということを心に強く刻んで来シーズンは繰り返さないようにしたいと思っております。

We are ONE プロジェクトだけではなく、サポーターの皆様の熱い気持ち・行動力は降格した 2 チームと差があったと感じています。神戸の社長とも話をしましたし、ガンバもそうだったと思います。これはサポーターの差だなと。その差というのは、アルビレックス新潟はサポーターの皆が、ただただ応援するサポーターではないということです。先程も言った **We are ONE** プロジェクトで皆がいろんなことをやってもらいました。横断幕を製作し選手も参加し、ポスターもサポーター、クラブスタッフと皆で一緒に貼りに行かせてもらいました。

クラブが主導とか、サポーターが主導とか、チームバスの出迎えはサポーターの皆さんの行動力ですが、今までクラブを支えてきたのはそういう力だと思っております。このアルビレックスという名前を作ったのもクラブではなく、皆さんの投票、皆さんから出していただいた提案についての投票で決まった名前です。

ビッグスワンが出来た時に、バックスタンドに掲げられるビッグフラッグは 2001 年の京都戦に向けて掲げたいとサポーターの有志の方が相談に来られました。300 万から 400 万くらいかかっているものですが、クラブにはお金が無いので僕らで募金をしたいからそれに協力してくれと申し出がありました。その時は我々も指定管理者とかではなかったので、県の施設の中で募金活動をするのはなかなか難しい事ですが、県と掛け合い募金活動をさ

せていただいて、選手にサイン入りのスパイクを出してもらったり、その時は反町さんでしたが自分が来ていたサイン入り現役時のユニフォームをチャリティーで出してもらって、そのお金が400万円くらい集まりました。1ヶ月くらいで集まって今のビッグフラッグがあります。

皆さんから募金をいただいてクラブハウスもでき、選手の寮もできました。選手寮ができたおかげでジャパネットたかたの物真似をした鈴木武蔵等のアンダー世代でも代表の経験をした選手が獲得できるようになりました。

サポーターCDもサポーターの皆様が主導で、クラブが販売の協力はしています。そんなクラブは他には無いと思います。ですから、皆さんの行動力がこのクラブを支えているので、その気持ちを無駄にしないように、これからも頑張っていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

質問者 7

3点申し上げたいと思います。

まず1点は、移籍交渉や代理人やルールの事を社長が言っておられましたが、そういう代理人さんがいる事、そういうルールであるというのはとても良く分かりました。なので、それを理由に仕方がないというのではなく、それを踏まえてその中で勝ち取る交渉をしてほしいと思いました。宜しく願いいたします。

2点目は、今年クラブの方から感じた事を例え話になりますが、銀行や役所に手続きをしたいから行きました。でもそこにはいろんな書類が並んでいるので、どれにどういう事を書いたら良いか分からず戸惑っている時に職員さんがカウンターの向こうから『何かお困りですか?』と言ってくれた。それで自分はこうしたい、と説明すると『では、こうしたらいいですよ』と言ってきて、用事を済ませる事ができた。何かやりたいことがある時に、どうしようどうしようと思っている時に、クラブの方からこういう事どうですか?と言ってくれたような。グッと膝を詰めてこっちに声をかけてくれたような気がします。We are ONEプロジェクトの企画もそうですし、グッズのアイデアの募集もそうでした。こちらの意見も聞いて、汲み上げて形にしてくれようという個人的には感じてすごく嬉しく思っているのです、これからもこういった事は続けて欲しいと思いました。

3点目は、普段からレインジャケットを愛用しているのですが、最終戦の次の日から買い物に行った時や、知り合いに会った時に、『おめでとう』『アルビスごいね』と声をかけられ、非常に嬉しい気持ちでいっぱいです。

物凄い残留劇をしたので、みんな今アルビレックスに目が向いていると思います。でも開幕は3月です。多分お正月等で人の気持ちはあつという間に他に向いてしまい、忘れてしまうのではないかと思います。このオフの期間になるべく県民の目にアルビレックスが触れるような工夫を何か一つしていただきたいし、出来る事があればこちらも協力したいと思っているので、ご検討宜しくお願いします。以上です。

神田

移籍ルールで代理人と交渉やどう交渉しているかですが、交渉の内容は言えないですけども、僕の一つの信念として、こういう事がありました。年代は除いてください。交渉の中で選手が出て行く・出て行かない、アルビをどうしたいという思いがない選手が多くなってしまい、シーズンが始まる時に17人しか選手がいなかった時がありました。その時に、社長に17人でやらせてくださいと話をした事があります。それは、『サポーターの皆さんと戦う選手を揃えたいです』と話した事があります。

今もそれは続いて交渉しています。ですので、ルールは変わって選手たちの気持ちも変わって、自分が試合に出るためにと考えているのですが、基本的にはアルビでどう戦いたいかと思っている選手を集めたいと思っているので、代理人と交渉している時にも『どうしたらアルビに残りますか？』と質問をすることもあります。

その辺はどう交渉しているかは信念を持ってやっているつもりですので、残ってくれたり、来てくれた選手がいたら、是非そこにはそういう思いを持った選手が来てくれたんだと思っていただきたいと思います。

田村

補足でございますが、代理人にも良い代理人もいます。これからは選手がそこを判断していかななくてはならないと個人的に思っております。中にはクラブは選手と直接話をするなという代理人もいます。そうすると選手もそれに従って、電話にでない。だからクラブの想いや考えも伝わらない。こちらが代理人に話したことが違う形で選手に伝わっている可能性がある。どう対策すればいいかというのは、色んな代理人がいるので、それは経験の中で任せてやっていただければと思いますが、代理人も商売なので選手が留まれば選手からの手数料しか入りませんが、選手を動かす事によって移籍金や年棒が上がれば自分の取り分が大きくなるので、動かすことが仕事と思っている代理人も中にはおります。そうでなくて、移籍することによって選手が活躍出来る、例えば高徳のような、僕らとしては少し残念ですが、新潟の三条出身の子が海外のドイツのシュツットガルトで6万人のスタジアムの中で大活躍している事を想像すると、子供たちの夢・サポーター達の夢でもあります。まだ高徳が行ってから1年も経っておりません。1年前は初めてJリーグでシュート決めて喜んでいた選手が、ドイツで点数も入れて何億の年俵で頑張っています。僕はそれを誇りに思っていますし、そういう選手が続けばいいなと思います。

ですから、そういったことを考えて移籍させてくれるような、いい代理人もいます。そういう延長契約も理解して、相手のチームと交渉して違約金もちゃんとクラブに残せるようにし、尚且つレンタル料もクラブに入る。それぐらいの気持ちで取ってくれと移籍先のクラブに言ってくれる代理人も中にはいます。

でも、そうじゃ無い代理人もいるので、選手もそこを見極める必要があり、自分でどう

やったらステップアップ出来るかと、ちゃんと理解してくれる代理人を選手自身が選ぶ事も大事なかなと思います。

山本

まずはグッズの件につきましては非常に嬉しいお言葉をありがとうございました。ただし、サポーターの皆さんからのアイデアを募集する企画は実は 2 年間実施できないまま過ぎてしまいましたので、大きな反省とその先に向かっていける一つの区切りの機会と捉え、またこういう事業を進めていきたいと考えています。来年の夏に向けてビーチサンダルなど夏物アイテムの企画をこの冬から進めている所でございますが、それだけでなく日々の中でクラブへの電話でもメールでも、或いは試合会場のスタッフにも、気軽に声をかけてアイデアをいただくとありがたいです。

と言いますのは、先程も申し上げましたように、一緒につくっていける機会をもっと増やしたいと考えているからです。最終盤に皆さんとひとつになって応援しようとした企画では、殆どの社員が携わらせていただきました。今までは状況に応じた担当部署の一部の社員だけでしたが、今回は殆どの社員がそこに携わらせていただいた事によって自分たちもサポーターの方達と一緒にやれるんだなぁと勉強させていただきました。従いまして、これからお電話やメールでも来年のビッグスワンでも気軽に声をかけていただければ、また一緒になってつくっていこうという思いにもなりますので、是非お互い近い距離で進められたら幸いに存じます。

それから、オフシーズン企画へのご提言についてはありがたく思っております。今回のカンファレンスに先立ち、サポーターの皆様から事前にいただいたご意見にも幾つかございましたが、我々も燃え上がったこの火をこの想いを絶やさず冷まさずに来年の開幕を迎えたいので、何が出来るか一生懸命考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

質問者 8

今シーズン反則が非常に多く、反則ポイントが多くて罰金を J リーグに支払わなければならないかと思うのですが、これをチームとして改善していただきたい。特に異議と遅延行為は自分たちで防げますよね？私、異議とか大嫌いなので、亜土夢選手と三門選手を見ているとスカッとします。彼らは笛を吹かれてもすぐに立ち上がって走っていくじゃないですか？あれを是非チームとして徹底していただきたい。

異議がなぜかサポーターに伝染してしまいます。選手や監督が審判に文句を言うとスタジアム全体が審判に文句を言うような雰囲気になってしまう。ただしそれはサポーターにも責任があると思います。一緒に乗っかって審判に向かって『死ぬ』とか言っているサポーターはダメだと思いますが、チームとして徹底していただければサポーターもそういう雰囲気になりお互いにいい関係になると思うので、異議と遅延行為などスポーツマンらしくない行為を是非なくしてスタジアム全体でいい雰囲気づくりをできるようにしていただ

きたい。

そうすれば、サポーターの方もサポーター同士で抗議とか異議とか野次やブーイングをやめようという雰囲気作りがしやすくなると思います。チームが掲げているから、俺たちも一緒にスポーツマンシップのある応援をしようよと、こちらも言いやすいので、お互いにそういう雰囲気作りをしていけばホームで勝てるチーム作りができると思うので、宜しくお願いいたします。

田村

ありがとうございました。今年は反則ポイント 104 ポイント。103 ポイント以上から罰金はそのポイントによって支払われます。40 万円でございます。

毎年、シーズンスタートの時に私や会社のスタッフがクラブハウスに行って、新しい選手もいるので挨拶させていただいてチームの今年の目標とフェアプレーを毎年言っております。今までずっともらったことがなく今年初めてで、これは弁解ではありませんが、今年は審判の所が厳しかったと感じています。実を言うと皆さんが疑問と思っている試合のほとんどは質問状を出しています。質問状は 3 日以内に出さなければいけないので大変ですが、そのシーンのビデオもつけております。特にホームの仙台戦、アウェイの仙台戦。あれは監督が体を張ってくれたので、ブルーノ・ロペス選手が最後出場でき活躍したので良かったです。それがなければ、103 以内には収まったと思いますが。そうは言っても、広島は優勝して反則ポイントが最小というのは史上初めということもあるので、僕らもそこを目指して頑張っていきたいと思います。

先程の方からも野次の件がありましたが、子供たちが真似してしまいます。自分の試合で子供がボランティアでやっている学生やお父さんがやっている審判に対して文句を言っているのも見られますので、三浦知良選手みたいに文句を言わずにパッと立ってプレーを続けるとか、なでしこリーグを見て頂ければフェアプレーですので皆さんスカッとします。異議を言わない事が大切だと思いますので、そこは神田さんお願いします。

神田

教育していきます。以前、アルビレックスはファールが多いチームか少ないチームかと言ったら、多いチームでした。罰金は今年 40 万円とありましたが、それ以上に支払った事もありました。そういう事も含めて選手としっかり気をつけていこうと毎年話しているが、自然と多くなる年もあるかもしれませんが、そこはあつてはならない事だと思いますので、引き続き選手と話をしていきたいと思います。

司会

質問の途中ですが、私が初めをお願いいたしましたが、残念ながらツイッターで投稿している方がいらっしやるようです。信頼関係の下で会を進めさせていただいておりますの

で、ご協力をお願いいたします。

質問者 9

先ほどもおっしゃっていた方もいますけれど、新潟県民は皆さんアルビレックスに関心を持っておりまして、勝った試合、負けた試合の全部に一喜一憂していらっしゃいます。私も町内で活動しておりますが、会うたびにそういう話を聞いております。町内の話で申し訳ありませんが、ここにきている人は熱烈なアルビレックスファンであると思います。町内には熱烈でないアルビファンもいらっしゃるのですが、年に2、3回飲み会をしておりますと、いろいろなこととお話ししてもらいます。その中で出てきたことを紹介したいと思います。

以前は4万人のお客様で非常に盛り上がっておりました。そういう状況を知っている人も4万人くれればいいね、とお話があります。そのためにはサッカーの試合を見て楽しかった、良かったと、もちろんチームは勝ってほしいですし、残念でも引き分けくらいで終わってほしいなと思います。そうでなくても楽しかったね、面白かったねと思って帰って来ることが大事だと思います。あわせて、スタジアムに足を運んでいただくということも大事だと思っています。その中にこんな意見がありました。アルビレックスもJ1で10周年を迎えることとなります。10周年で何かをやる予定があるのかなのか分かりませんが、今いる選手、もしくは去ってしまった選手でもいいのですが、選手のモニュメントがスタジアムのどこかにあれば、それを見に行く、サッカーを見るけれど、モニュメントも見たいなど。そうするとそこであの選手の名前のあるところで記念撮影しようかというのも生まれてくるという声も聞かれます。サッカー選手だから足型というわけにもいかならないと思いますが、手形でもなんでもいいですので、そういうのがあれば嬉しいという声がありましたので紹介させていただきます。ビッグスワンの東側のカナルがありますが、その両側を使って青空市ではないですが、ガレージセールでも構いませんので、そのついでにサッカーを見ようという人もいます。そういうものを開催してもらえれば足が向くのではないかという声も出ていました。できるかどうか分かりませんが、呼びかけても出店される方もいないかも知れませんが、何とも言えませんが、そういう意見がありましたので紹介させていただきます。ハーフタイムの時間に、サポーターの大合唱などがあれば面白いと思います。アメリカの野球場では7回に「野球場に行こう」という歌が流れてくるそうですが、全チーム同じ歌でなくても、アルビレックスだけでもいいですので、行けばあの歌を歌うんだ、といったものがあると歌も覚えて、歌を歌いながらサッカーも見ようということにつながるのではないかという声がありましたので紹介させていただきます。できることがあれば検討してください。

山本

貴重なご意見ありがとうございました。大変申し訳ございませんが、10周年の企画につ

いてはまだ考えておりませんでした。気持ちを引き締めて来年に向かおうと思っておりましたが、大事な周年事業より今のこの気運を開幕までどう保っていくかということを優先的に考えていました。その点につきましては皆様にもご意見をいただきながらクラブの中でも検討していきたいと思っております。

青空市、フリーマーケット等につきましては、2008年頃に小規模でやっていたこともありますが、手作りである一方、管理が難しく続かなかったのですが、経験のあるテレビ局やラジオ局にも協力していただくことも検討してまいります。

ハーフタイムの応援歌につきましては、サポーターの皆様と意見交換をしていかなければならないと思います。試合会場で360度から皆さんの応援の声が聞こえるというのが理想のスタジアムであると思います。クラブとしても皆で一丸になって声を出し、チームを後押ししていただきたいという想いからシーズン終盤戦は会場でお配りするマッチデープログラムにも歌詞を入れさせていただきました。会場の雰囲気づくりやチームを鼓舞する取り組みはできる限り一緒にやらせていただきたいので、こちらにつきましてはサポーターの皆様と話をさせていただきたいと思います。

質問者 10

質問というより要望、お願いがいくつかあります。皆さんは同じようなことをおっしゃっておりますが、今季残留という一つの大きな目標ができたときに、いろんな人がいろんな活動ができたと思います。ぜひ、これで一区切りという形ではなく、来季、頭から同じように、せつかく後半はみんなでこれだけのことができたので、続けていけるような形を作っていただきたいと思います。サポーターがある程度主導してやっていきましたが、どちらかという職業として、仕事として社員がやるべきだと思います。サポーターが始めたことに後押ししてくれるのも非常にありがたいですし、素晴らしい関係だと思いますが、もう少し一生懸命やらなければならない会社の方々、若い方々がぜひ開幕までに時間を作っていただいて、次に何ができるのか、一緒に何かを作っていく気持ちがあるのならお願いしたいと思います。

昇格した時に、5年以内に優勝を目指しますと聞いたことがあるが、毎年開幕前になるとクラブからスローガンや目標が発表されますが、サポーターは優勝しか考えていません。中途半端なACLとか賞金圏内5位以内という目標を出されると、非常にテンションが下がるので、決して新潟が優勝目指しますと言ってもおかしくない。実際に応援している方は優勝を目指しているのに、発表されるのがACLや賞金圏内では淋しいので、お願いしたいと思います。苦情になります。初めて来たのですが、もう少し来年どうします、うちのクラブは3年後にどうなりますとか、前向きな話を聞けるものだと思って来たのですが、移籍騒動の抗議と会社の状況だけ話をしてもらったような感じですので、実際に数字の話をするのであれば手元に資料をいただかないと、作っておいていただくのが普通だと思うのですが、わざわざ3時間も費やして、こんな話を聞きに来たのかと思うとガッカリしてい

ます。

田村

まず、残留の皆さんの盛り上がりについて、来年も頭から社員も総出で継続してやっていきたいと思います。昇格から5年以内に優勝するというのは私もスタッフとして関わっていましたので覚えています。その後、2005年からは10年後に世界一を目指すということも掲げていました。実際にJ1リーグで9年たちまして、2004年のチーム力と比べると、残留争いをしてなんだと言われますが、最後の方の戦い方ができるようなチーム力になっていると思います。今シーズンは監督だけの力でなく、もともとの選手の能力や意識を引き出していただいて、選手たちが頑張ってチームが少し良くなったということではないかと思っています。目標を賞金圏内と過去に言ったことはありますが、最近の3年間はまず可能性がある限りタイトルを獲得すると。ACL出場というのは3位以内ということですから、タイトルというのはナビスコもあるし天皇杯もあります。なかなか成果が上がっていないのが現状でございます。それを改善しながら今後もやっていきたいと思っておりますし、優勝は狙っていきたいと思っています。来年の話は一番当初に話した通り、今年の反省を踏まえて皆さんからお知恵をいただきながら改善してまいります。ぜひご理解をお願いします。

質問者 11

招待券や広報について山本部長にお伺いしたいのですが、先ほど小中学生とか地域の方に招待券とか、親御さんを無料にしてスタジアムに来てもらうという話がありましたが、私は今新潟県内の大学に通っていいまして、大学では全くそういうのがない。目にしていない。大学生は小中学生に比べて暇だと思ふ。最終節にチケットをいただいて大学の友達に配ったのですが、みんな割と反応は良かった。たくさんの方が12月1日の札幌戦にスタジアムへ来てくれて、次の週には「残留してよかったね」、「もう試合はないのか」、「天皇杯はないのか」と声がありました。次はチケットを買って行きたいという声もありました。新潟県内の大学で行っている活動の現状と、来年度大学生に対して活動していただきたいです。

山本

ありがとうございます。現在、クラブから大学への活動は、関連のある新潟医療福祉大学さんに最終戦の観戦招待をさせていただいただけに留まります。2009年は新潟経営大学さん、それに加え、2010年、2011年は新潟大学さん、新潟医療福祉大学さん、アップルススポーツカレッジさんの学生有志とも連携し、ビッグスワンの来場者層で2%程度しかない18歳から22歳の方々を、いかにスタジアムへお越しいただけるかという企画を取り組ませていただいた。今年実施できなかったことについては猛反省しながら、本日ありがたいお話

をいただきましたので、大学生の皆様の中で有志の方がいらっしゃったら、ぜひ一緒にワーキンググループというか、施策を検討する会を開かせていただきたいと思います。

既に他にも数名の大学生の有志が居られますので、これからご一緒に進めさせていただき、また来年のこの場で、どんな取り組みをしてどれ位の学生の方々にお越しいただけたかという発表をさせていただけたら良いと思いますので、よろしくお願いいたします。

質問者 12

まず、神田さんに質問というか意見なのですが、今年の補強に関しては昨年得点が減少したということもあり得点力のある選手を取りましたが、活躍できなかった。いくらいい選手を獲得しても、いいパサーがいなければ前線の選手は生きないと思います。その辺を来季はゲームメイクできる選手は必要であります。本間選手も年齢があるので、後継者を早く探さなければならないと思います。田村社長には、社長に就任してから毎年 ACL を目標にしていますが、結果を見ればこのごまです。監督や選手にも責任はあります。でも、トップである田村社長が責任を取らなければならないのではないですか。そんなことをしていれば、いつまでも残留争いです。他の例を出すと、マリノスは大量に選手を解雇したことがあって、来季 ACL を取らなければ辞任します、という話もありました。強い覚悟をもってやらなければならないと思います。実際には辞任はしておりませんが。集客については減っています。その原因は無料チケットではないですか。無料チケットは、集客力は高まりますが、観戦価値としては下がると思います。それは無料で観戦する人というのは、負けても無駄になっていないという現状なのです。この無料チケットが復活した 2007 年、2008 年というのは財務体質が悪化したと思います。無料チケットをいつでも出していれば集客はできないと思います。

神田

今、選手のポジションの構想という部分と、今季のように得点力のある選手がいてもパサーがいなければというところを踏まえて来季は考えていきたいと思います。今年の選手が活躍できなかったのは、パサーだけなのか、そうでない部分もあるのか、検証していきます。検証するだけでは前に進まないの、検証と何をどうすべきか、というところを踏まえて柳下監督と詰めて補強しようと話をしています。本間選手についてはそろそろという意見もたくさんあると思いますが、チームに若手が多くなったり、チームの歴史を知る選手がいたり、ピッチ以外のところでチームをまとめたりという部分で貢献度というのは、ピッチの中だけでなく、それを支える役目もしっかりと本人が買って出ている部分もあります。ピッチの中で選手は頑張るものということもありますが、それ以外で勝つために何をしなければいけないかという部分で、パフォーマンスとチームの中での役割を考えていきたいです。

田村

目標を掲げながら結果が出ていないのは反省をしておりますし責任を感じております。ただ、私がこのチームの前身である新潟イレブンを経験させていただいて、このチームを最後まで見届けたい、そういう想いでここに飛び込んできました。もちろん、前職が会計事務所ということで、皆さんからはちょっと覇気がないとか暗いとか、そういう意見があるのは重々承知しております。これは私の素ということでご理解いただきたいと思います。96年に会社を立ち上げる時に、1か月、2か月、本当に寝ないで会社作りをしました。その時の記憶が、96年何が流行ったか、どういう曲が売っていたのか、全然覚えていません。会社のスタッフが死に物狂いで自分の車にスピーカーを積んで、街宣カーみたいに街中走り回り、試合の宣伝をしたりしました。地域リーグなので無料だったため、チケットをいろいろな方に配り、市陸に9,000人集めました。サポーターも少なかったですが手伝ってもらって、みんなで作ったこのチームを私はとても大切に想っています。今シーズンは皆さんと同じ悔しい思いでいっぱいです。自分の愛したクラブなので最後まで一緒に戦わせてください。よろしくお願いいたします。

山本

ご意見をいただいた招待券については、実際に2008年からできる限り減らしております。一般的な企業団体への無料招待は2008年から2009年、2009年から2010年と2割ずつ、2010年以降は1割ずつ減らしています。色々な所に招待券が出回らないよう、少しずつですが減らしていく方向で考えております。

ただし、県内にはまだまだ観戦されていない方々も多くいらっしゃいますので、観戦機会のご提供やファンづくりの第一歩という観点ではご理解いただきたいと思います。その意味でも、後援会員さんやスポンサーなど物心両面でクラブをご支援いただく方をもっと増やしていきながら、そのような有償支援の方にメリットチケットをお渡ししたり、引換特典としてご招待させていただく形に注力していきたいと考えています。すぐにゼロという形にはできないのですが、クラブに関わりを持って応援いただくアルビファミリーや自治会、学校以外は徐々に減らしており、観戦価値を下げないように努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

質問者 13

スタジアムBGMは重要だと思っています。他のアウェイのスタジアムでBGMがセンスいい思うこともあります。好みの問題もありますが、ビッグスワンもフットボールが始まるよ、といういい音楽を流していると思います。撤収の時に流している曲も、聞くと試合が終わったという効果がスタジアムBGMにはあると思います。選曲は誰がしているのか。また、BGMが重要だと思うからこそ、スポンサーさんが絡むのでクラブの方は言いにくいのかも知れませんが、誰も知らないような新潟讃歌はしらけた。みんなが老若男女が俺た

ちの歌だと思えるような BGM を選んでいただきたいと思います。

山本

ありがとうございます。まず二つ目の方から説明させていただきます。試合終了後の状況ですが、クラブを大きく支援していただいているスポンサーのサンクスデーでもあり、サポーターの皆さんとともに新潟を盛り上げていきたいという意向もございましたので、なにとぞご理解いただきたいと思います。スタジアム BGM の選曲については、弊社運営担当と演出会社の方で話し合いを進めながら選曲しております。BGM については、他のスタジアムでこんなのが良かったとか、国内外のスポーツに限らずエンターテイメントの現場でこんな雰囲気のものがあった、お薦めだというものがございますら、ご意見をお聞かせください。一緒に楽しい雰囲気のスタジアムをつくっていけるとと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

質問者 14

シーズンパスを持っているが、仕事の段取りができて皆勤賞になりました。大局を制するのは戦国武将ではありませんが、小さいことに目を向けてほしいと前からクラブにはお話しております。その中で気づいたことは、ホーム、アウェイ問わず喫煙のルールが守られていない。一番よろしくないと思います。京都の西京極は厳しくて公園内はダメなのですが、それでも吸う方がいる。やめましょうと注意したことは過去にありますが、喫煙のマナーが悪く感じた。今年、ケガをして松葉杖で来場する際、近い駐車場に停めさせていただきましたが、ズルして停めている人がたくさんいる。健常者が普通に車を停めて歩いているのを見ると、真面目に申告して、車いすの方もいるのに、残念。もう少し目配りをしてほしい。以前に注意をしてトラブルになったこともあります。決してそれは正義感だけでなく、お客様を迎え入れる環境づくりだと思いますので、クラブが一步踏み出してほしいと思います。シーズンパスの販売促進のお願いですが、企画チケットは今までにない発想でこられたと思うが、シーズンパスの販売は相変わらず知恵がないなど。何かをつけろというわけではなくて、購入するサポーターさんの選択肢を増やしてほしい。今回は反映されておりましたが、指定席を細かく買えるよう提案をさせていただいていた。例えばブロックで選べるとか、席を選べるとか、この場所がいいとか。ハードルが高いとは思いますが、そこまで選択肢を上げることによって、無料チケットを配布しなくてもよくなると思います。シーズンパスのウェイトを上げていくために、もっと今までの発想を転換していただきたい。今年のクラブの取り組みは見える化が進んだと思うので、アルビレックス新潟のスタッフの皆さんも、新潟県がホームタウンだと思っておりますので、もっと見える化を進めていただいて、巻き込む、取り込むということをクラブがしなくても県民の方が自然に手を挙げるような見える化を進めてほしいと思います。

山本

喫煙のルールが守られていないとは、具体的にどのようなことが起きたのでしょうか。

質問者 14

スタジアムに入ってから指定された喫煙所で吸われていますが、スタジアムに入る前に集まってお弁当を食べたりしている中で喫煙している人がいる。残念ながら同じ人がホーム、アウェイ問わず繰り返している人がいる。

山本

スタジアムと公園のルールと照らし合わせて、改善の呼びかけが必要であれば行きます。障害者の方々の駐車場のご利用については、事前に連絡をいただいて会社で受けようとしております。本当にそうなのかどうなのか細かくチェックし問いただすことも中々難しいと思いますが、少しでも改善できるように運営部門と詰めていきます。

また、シーズンパスの価値の向上、大事なご意見だと思っています。チケットをお買い求めいただいて応援いただいている方もそうですが、パスをお持ちの方々が、本当にクラブを支えていただいていると感じております。アドバイスいただきました席の詳細な選択の仕方については、どこまで管理できるのか、チケット会社との連携や案内物の作り込みなど、いつまでに何をできるかはここでは申し上げられないですが、利便性向上に努めて参ります。私自身も、パスを更新されるときに『何処々々の席が空いている』ということが具体的にオンラインのサイトで見られたりすると、席の移動や追加ですとか、新しくお求めいただく方にも選びやすいとか、そんなことができれば良いなあと思っていました。この仕組みもオンラインチケット販売で連携しているところに可能性の調査をお願いしております。そこでまたシステム投資が必要という部分もありますが、価値の向上と利便性の向上についてはどこまでも追求していきたいと思います。

新潟県内全域でのムーブメントの巻き込みについてですが、先ほどの招待の話につながりますが、多くの方に関係いただければいただけるほど、アルビレックス新潟が身近に感じられ、招待ではなくて一緒につくろう、一緒に応援しようという動きになると感じております。今シーズンが終わり、糸魚川や上越中越や県内各地にも挨拶まわりをさせていただいておりますと、相当な数の企業の従業員の方々や自治体の職員の方々もアルビレックス新潟を応援いただいていると直に感じております。そういった方々、企業単位、地域単位で一緒に活動できるように後援会の各地区連携も含め、地域の方々と一緒になって取り組んでいきたいと思っております。大変ありがとうございました。

司会

時間もかなり過ぎてしましまして申し訳ございません。通常 2 時間でやらせていただいているカンファレンスを、今回 3 時間やらせていただきました。これで会を終了とさせて

いただきます。最後に社長の田村よりご挨拶させていただきます。

田村

言いたかったのは、皆さんと同じように悔しくて、これをバネに前進していきたいという想いを伝えたかった。過去の想いや出来事を考えると涙が出てきました。反省すべき点は反省しながら、新潟はもっと前進していきたいと思います。育成クラブと言いますけれど、少しずつですが、皆さんのご理解、お力もあり、新潟の子供たちが日の丸を付けて活躍する選手が出てきたり、高德のように世界で活躍する選手も出てきました。これを続けることによっていろんな人たちから支援され、支援の輪が広がり、集客につながっていくと思っております。隣のお兄さんがサッカーを始めて、プロになれば近所の方は応援していくと思えますし、恩師や同級生、関わりのある人がチームのサポーターになってくれると思っております。そのためにはこれからも皆様の応援が必要となりますので、これからもチームを後押ししていただきたいと思います。本日はありがとうございました。